

アイアイネット川柳投句しよう

三月の入選作品 お題「店」

天位

大好きな
お店がだんだん
遠くなる

宮尾 美明



地位

この店の
赤提灯も
年をとり

大録 秀樹

人位

閉めるのも
辛かったよね
シャッター街

吉野 福美

五客

体力の
限界ですと
店を閉め

島田 勝明

五客

村人は
噂仕入れに
店に寄る

寺井 一也

五客

店員の
笑顔がうれしい
明るい店

岡本 徹靖

五客

いらっしやい
商店街に
響く声

加嶋 洋子

五客

あのボトル
有るはずなのに
店が無い

渡辺 勇三



選者:石田一郎 司会:真紀

入選句 57句

コロナ禍でシャッター街も増えていく

島立 隆男

閉店に名残を惜しむ列長く

青木真紀子

看板が老舗ですよと言っている

小田中準一

おなじみの店がコロナに食われてく

上野 浩子

喋らずに食べたらすぐにマスクして

正能 照也

人柄が繁盛させる店の顔

浅原 幸子

人ざかり目玉商品店の顔

清水登美子

コロナ禍で店舗が悲鳴四苦八苦

細川 岩男

店が出来商店街が元気出る

小林 靖

妻と行く店の灯りにほっとする

稲川 正幸

寂しさの募るばかりの店仕舞い

幅 茂

買いました店の試着で褒められて

山口 公子

喫茶店若い私に会いに行く

真田 義子

コロナ禍に知恵も気力も盛る店主

岡埜 陽香

店員の笑顔も付けて大特価

柳本 隆男

立ち寄れば飲まれてしまう店がある

田村 美穂

評判の初代の味がしみたそば

高山 功

母さんといっしょに行ったすし屋さん

小野 しま

セピア色昭和懐かし駄菓子店

桜井 章一

お年寄りこよなく愛した店は閉じ
生き残る小店愛敬誠実さ

幸野 隆一

遠き日を夜店に探す花だんご

森澤しもこ

シャッターが商店街にめだつ町

中澤 仁捷

駄菓子屋で夢中になった良き昭和

清水 保

閉店の文字が滲んでいる無念

小林 功子

売り出しの店の前には人と並ぶ

田崎 信

大店を閉める店主に幸よあれ

梅崎 冴子

シャッターを下ろした店のつづく街

岡崎 実

里想う変わらぬ味の通う店

右田 俊郎

開店日花束まぶしい日もあった

藤巻 久子

開店後すぐに消えてく看板メニュー

清水 民子

愛されたi・iネットも店じまい

横山 閱治郎

少子化と過疎が重なり立ち行かず

莊子 隆

店じまい名残を惜しむ十七年

中村 宗一

開店ヘライバルからも来た祝辞

柳谷 益弘

品数が百を超えても百貨店

沢田 正司

わが代で老舗をたたむ死ぬ思い

西村 芳和

店じまいほんまでっかと聞いてみる

安藤 幸雄

原茂 敬浩

宅飲みも8時で妻が店じまい

菅野八恵子

あのごろなゴの濁点が無い店が

山口 和也

負け組と言わせないよと通う店

木本 英男

物産展うれし美味しい百貨店

鈴木 則子

雪はもうないがコロナで店仕舞い

福島 亮也

店の名がなかなか出ないボケたかな

武藤 喜明

寂しさは百年続く店が消え

金子 秀重

コロナ禍の前からやってる閉店セール

小管 隼人

盛況で閉店セール止められず

岡田 孝道

当て外れまた行きつけが店じまい

堀口 直子

いらっしやいママゴトの店春うらら

小原久美子

スーパーに吞み込まれゆく個人店

岡田 弘子

早や五年閉店セール始まって

田島 晋

子らの夢お花屋パン屋ケーキ屋さん

大澤 葵

コロナには勝てなかったと店じまい

鎌田 康裕

いい出会いい思い出が並ぶ店

河野 喜幸

これ食べた店はどこだと忘れし

山森 貴矢

カーナビを頼りに向かう安売り店

横手 敏夫

してみたい値段を見ずにお買い物

中澤 直子